

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 不動明王立像・天部立像

今月紹介するのは、満願寺の不動明王立像・天部立像です。

満願寺は今までも何回か紹介していますが、奈良時代より続く古いお寺で、平安時代末期より鎌倉時代に至る仏像が数多くあります。今回紹介する不動明王立像・天部立像も、この時代の仏像なのです。

不動明王像は、大日如来が一切の悪を下すために怒りの姿となつてあらわれたもので、各時代にわたつて作品が作られています。怖い顔の不動明王像を見て、身震いするような思いをした方も多いのではないかと思います。一方の天部とは、仏法を守護する神々で、梵天・帝釈天・吉祥天・訶梨帝母・弁才天・伎芸天などの貴顕天部と、甲冑に身を固め、武器を取り怒つた表情が特徴的な、四天王・十二神将・執金剛神などの武人天部に

大きく分けられます。

それでは、満願寺の不動明王立像の特徴を説明しましょう。高さは97cmのこの像の頭部は、髪がまばらに彫られ、天冠台をつけ、弁髪を左側にたれ、右目を大きく見開き、左目を細めており、「天地眼」といわれる姿をしています。条帛をかけ、折り返し二段の裳をつけ、腰布を腹前で結んでいます。さらにお腹の脇で剣を握り、腰を少しひねり、左足をわずかに踏み出し、怒つた表情をしているものの、その中に穏やかさが見られるといった特徴があります。残念なことには平安時代末期の作品と考えられるこの仏像も、

繰り返し行われた補修によって、顔がダルマさんのような風貌になっています。

天部像については頭部だけのものが一体と、両腕のない胴体だけのものが二体あります。先に書いたとおり、天部像についてはいくつもの種

類があるのですが、満願寺のものは部分的にしか残存しないため、種類が分からないのです。しかし、平安時代末期の満願寺には数多くの天部像があつたことが推定されます。

満願寺の成り立ちについては、未解明な点が多いのですが、現在に残る平安時代末期から鎌倉時代に多くの仏像からは、当時ここに、多くの建物と仏像群があり、繁栄していたことを現在に伝えていきます。



不動明王立像・天部立像

鎌倉時代			平安時代													時代			
1199	1196	1192	1185	1184	1180	1166	1159	1156	1156	1083	1053	1052	1051	1028	1016	1001	西暦		
正治元	建久6	建久3	文治元	元暦元	治承4	仁安元	平治元	保元元	保元元	永保3	天喜元	永承7	永承6	長元元	長和5	長保3	元号		
源頼朝逝去。幕府の実権が北条氏につつまる。	初代上三川城主横田(宇都宮)頼業生まれる。	源頼朝、征夷大將軍に任せられる。	朝廷、源頼朝に守護・地頭設置の勅許を与える。	平家、壇ノ浦で滅亡。	宇都宮朝綱、源頼朝より本領を安堵され、新恩を給付される。	一の谷の合戦。	源頼朝、伊豆で挙兵。	平清盛が内大臣になる。	平治の乱が起きる。	保元の乱が起きる。	※このころ満願寺の不動明王立像・天部立像が作られる。	後三年の役が始まる(1087)。	宇都宮宗円、奥州平定の功によって宇都宮大明神の座主に任じられ、宇都宮城を築き居城とする。	この年から末法の世になると信じられる。	前九年の役が始まる(1062)。	藤原道長が摂政になる。	平忠常の乱が起きる。	このころ「枕草子」が作られる。	できごと